１　単元名　　本のせかいをたのしむ　　（第１学年　国語科）		
２　本学習のねらい（付けたい力） ・場面の様子に気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度【国語への関心・意欲・態度】 ・場面の様子について、登場人物の行動に着目し、想像を広げながら読むこと。【読むこと　ウ】		
３　ねらいを達成させるための学校図書館を活用した言語活動 ・読んだ本について、好きなところを紹介すること。【言語活動例　オ】		
４　教材　「うみへのながいたび」（教科書教材）　動物が主人公の絵本		
５　単元の指導計画（全１２時間）		
	◆学習活動	○指導上の留意点
第一次	◆学習の見通しを持ち、並行読書を始める。 ◆「うみへのながいたび」を読み、白くまの兄弟の様子や母ぐまの気持ちを場面の様子から想像を広げて読む。（５時間） ◆「うみへのながいたび」の登場人物の好きなところを紹介する。（１時間）	○別室に動物を主人公とした本を 100 冊ほど集めて「動物文庫」を設置し、読書に親しむことができる環境を整える。 ○すすんで読書できるように、動物が主人公の本をブックトークで紹介する。 ○登場人物の行動や心情を表す文や語句に着目させる。 ○吹き出しワークシートに登場人物の心情や会話を想像を広げて書かせる。 ○①「好きなところ」②「どこからそう思ったのか」をカードに書かせる。 【別室に設けられた「動物文庫」】
第二次	◆動物が主人公のいろいろな物語を読み、紹介する本を決める。（２時間） ◆紹介カードを書き、お気に入りの登場人物を紹介し合う。（本時）（２時間） ◆ペアの６年生に対して、お気に入りの登場人物を紹介することができる。（１時間） ◆友達が紹介した本の中から読みたい	○紹介したい登場人物について①「この本に出てくる好きな子」②「その子はどんな子か」③「なぜ、そう思ったのか」をカードに書かせる。 ○ペアの６年生には、紹介を聞いた後、感想を伝えるよう事前に指導する。 ○紹介を聞いた子には「お客さまカード」を、紹介された本を読んだ子には「読ん

	本を選んで、図書館で読む。（１時間）	だよカード」を書かせ、掲示して意欲を高める。 ○家庭にも学習について便り等で伝え、紹介する機会がもてるよう協力を依頼する。

６　本時の学習

時間	◆学習活動と児童・生徒の反応	○指導上の留意点★評価の視点
10分	◆紹介カードの書き方を知る。 	○紹介カードの書き方を例を示しながら説明する。 ○「うみへのながいたび」で身につけた「想像を広げながら読む技能」を活用できるように、掲示物で振り返る。
25分	◆自分が選んだ本を読み、紹介カードに①「この本に出てくる好きな子」②「その子はどんな子か」③「なぜ、そう思ったのか」を考えて書く。 【児童の紹介カード】 お気に入りのクマは、この緑のクマだよ。ぼくもこんな力持ちになりたいよ。 たぬきちが好きだよ。おばけになろうとがんばるよ。何度も練習してできるようになったよ。 くんちゃんは、優しい子。今夜は寒くなるって聞いて、ウッドチャックに覆いをかけてあげんだよ。	○「なぜ、そう思ったの」と問うことにより、登場人物の行動や会話に着目させる。 ○紹介カードを書くことができない児童には個別に聞き取りをし、書くことを支援する。 ・「○○さんが好きな子は、どんな子なの。」 ・「どのページがお気に入りなの。」 ・「どうして優しい子だと思ったの。」 ・「すごい！そんなことまで読み取れているんだね。」 ○カード作りが完了した児童には、紹介の練習をさせたり、２冊目の本の紹介カード作りをさせたりする。 ★登場人物の紹介をカードに書き、登場人物の行動や会話に着目して、想像を広げながら読むことができたか。
10分	◆紹介カードができた児童が全体の前で紹介する。	○カードと本（好きな場面の絵や写真など）を見せながら、紹介させる。

	【児童の発言】 ラチは始めは世界で一番弱虫だったのに、最後には何でもできるようになったんだよ。このページで、ラチはライオンにお礼をしようとするんだよ。ラチを育ててくれたすごいライオンなんだよ。 	○お気に入りの場面を声に出して読むことにも取り組ませたい。 ○聞き手には、紹介された本についてもっと知りたいことや疑問に思ったことを質問させる。 ○登場人物の行動や会話に着目した紹介を広め、次時につなげるとともに、意欲を高める。

７学校図書館を活用した言語活動を取り入れた効果

・「動物文庫」には常に児童が集い、交流を深めながら本に親しんでいた。
・「お気に入りの登場人物を紹介し合おう。」と投げかけたことにより、児童は意欲をもって読書に取り組んだ。登場人物と自分を重ね合わせたり、登場人物に愛着をもったりして、同じ本を何回も読む児童も見られた。
・第一次で付けた読みの技能を活用して、第二次の言語活動に生かすことができるように単元を構成したことにより、児童は読みを深め、読書の楽しさを味わうことができた。
・本の紹介をする活動で「その登場人物を好きなわけ」「どこからそれが言えるか」を考えることにより、叙述をもとに想像を広げながら、本の世界を味わうことができた。